

留学・海外交流の促進

施策	6-2 (1) 留学・海外交流の促進	担当部局	スポーツ・文化観光部 大学課 教育委員会 教育政策課、高校教育課
----	-----------------------	------	-------------------------------------

❖ 目 標

- 海外に留学する大学生や高校生を増やすとともに、外国人留学生の受入れを増やし、海外交流を促進します。

❖ 施策に関する指標

成果指標	現状値	目標値
県内高等教育機関（大学等）から海外への留学生数	(2020年度) 19人	1,000人
外国人留学生数	(2020年度) 3,939人	5,000人

留学・海外交流の促進

活動指標	現状値	目標値
ふじのくにグローバル人材育成基金による海外交流者数	(2017～2020年度) 累計 688人	(2022～2025年度) 累計 1,000人
海外教育機関に対する県内大学進学説明会参加者数	(2020年度) —	240人
ふじのくに地域・大学コンソーシアム事業への参加留学生数	(2020年度) 378人	500人
海外修学旅行を実施した高等学校の割合	(2020年度) 0%	40%

◆ 施策推進の視点・主な取組

視点1 グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手の育成

① 産学官の連携による海外留学の促進

産学官の連携を強化し、県内大学生の海外留学を支援するとともに、ふじのくにグローバル人材育成基金を活用し、高校生と教職員の海外体験の促進に取り組みます。

視点2 外国人留学生の受入れ拡充に向けた入口から出口までの一体的な支援の強化

② 外国人留学生の受入れ・定着の促進

本県への留学促進に向けた積極的な情報発信を行うとともに、滞在サポートや交流支援・就職支援など、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する留学生支援事業への支援を通じ、就職（出口）の成果が外国人留学生の受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムを構築します。

視点3 児童・生徒等に対する国際感覚の涵養

③ アフターコロナに向けた海外との交流促進

異文化に触れ、外国の歴史・文化や習慣などを理解し、国際感覚を身につけた人材を育成するため、高等学校の海外修学旅行等を促進するとともに、県内大学等における海外大学との交流や短期留学生交流を推進します。

1 現状・課題と県の施策

【現状・課題1】

- あらゆる分野でグローバル化が進展する中、本県の持続的な発展を図るため、異なる言語、文化、価値観などそれぞれのバックグラウンドに由来する差異を乗り越え、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力を身につけ、地域や国際社会に貢献できる人材の育成が必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、グローバルな視点を育む海外での学びは大きな制約を受け、海外への留学生数は大きく減少しています。



視点1 グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手の育成

- 施策の方向性⇒世界に目を向け、意欲を持って参加する県内大学生の海外留学や高校生の海外体験を産学官が一体となって支援することにより、多様性を理解し、地域や世界に貢献できる人材の育成に取り組みます。

主な取組⇒産学官の連携による海外留学の促進

1 県内大学等から海外への留学生数の推移

- ・県内大学等から海外への留学生数は、令和元年度までは堅調に推移していましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による世界的な出入国制限により、大きく減少しました。

<県内大学等から海外への留学生数>

	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2025/R7)
静岡県	904人	809人	887人	19人	(集計中)	1,000人
全国	105,301人	115,146人	107,346人	1,487人	(未発表)	(2020/R2) 120,000人

2 グローバル人材育成基金による海外交流者数

- ・ふじのくにグローバル人材育成基金を活用した県内高校生及び教職員の海外交流者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度・2年度と減少しましたが、令和3年度は、オンラインによる交流を促進した結果、増加しています。

<県内高校生及び教職員の海外交流者数>

2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2022~2025/R4~R7)
230人	222人	154人	82人	353人 (オンライン)	累計 1,000人

【現状・課題2】

- 出身国等の発展への貢献はもとより、海外からの優れた人材の確保、日本人学生の異文化理解等にもつながる海外からの留学生の受入れを積極的に進めていくことが重要です。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により減少した海外からの留学生の受入れを増やすため、アフターコロナも見据えた海外教育機関へのリクルーティング等により、本県への留学促進を図っていく必要があります。



視点2 外国人留学生の受入れ拡充に向けた入口から出口までの一体的な支援の強化

- 施策の方向性⇒学生の多様性を養い、グローバルな視点を兼ね備えた人材を育成するため、コロナ禍で激減した外国人留学生の獲得に積極的に取り組むとともに、本県の持続的な発展を支える外国人留学生の県内定着を促進します。

主な取組⇒外国人留学生の受入れ・定着の促進

1 外国人留学生数の推移

- ・外国人留学生数は年々増加の傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う入国制限により、令和3年度は減少に転じました。
- ・外国人留学生は、国内の日本語学校を経由して大学や専修学校等に入学する割合が高いため、国内の日本語教育機関に在籍する留学生の減少に伴い、今後、県内の大学や専修学校等の在籍者数が減少することが懸念されます。
- ・増加傾向に転じるのは令和6年頃の見込みであり、それまでは留学生数の減少が続くことが予想されます。

<外国人留学生数の推移>

(各年5月1日現在)

	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2025/R7)
静岡県	2,821人	3,355人	3,598人	3,939人	3,494人	5,000人
大学・高等専門学校	961人	1,076人	1,176人	1,206人	1,188人	
専修学校	780人	952人	1,224人	1,541人	1,604人	
日本語学校	1,080人	1,327人	1,198人	1,192人	702人	
全 国	267,042人	298,980人	312,214人	279,597人	242,444人	(2020/R2) 300,000人

<留学生数の増減動向(推定)>

	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
留学生数	3,494人	↓	↓	↗	5,000人
日本語学校	702人 入学者減	↗ 入学増	回復	卒業生輩出回復	
大学、高専、専修学校	2,792人	↘ 入学生減	↘ 入学生減	↗ 入学増	↗1-2年増

※R7時点で学部3-4年生はコロナ以前の学生数と比較して減少しているため、全学年で影響がなくなるのはR9以降の見込みである。

2 外国人留学生の進路状況

- ・外国人留学生の国内への残留率は減少傾向にありますが、本県への残留率は概ね3割で推移しています。

卒業年度		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
卒業生数 A		197人	226人	225人	239人	311人
日本 国内	県内進学 B	13人	31人	22人	16人	25人
	県外進学 C	8人	11人	8人	10人	13人
	県内就職 D	50人	40人	42人	52人	68人
	県外就職 E	54人	48人	54人	33人	50人
	その他	21人	27人	27人	43人	44人
	計	146人	157人	153人	154人	200人
	国内残留率	74.1%	69.5%	68.0%	64.4%	64.3%
母国	帰国者数	49人	56人	69人	83人	106人
	帰国率	24.9%	24.8%	30.7%	34.7%	34.1%
母国以外の海外	渡航者数	2人	13人	3人	2人	5人
県内残留率計 (B+D) /A		32.0%	31.4%	28.4%	28.5%	29.9%

【現状・課題3】

- 教育分野での海外との交流促進に向けては、本県地域外交方針における重点国・地域等との継続的な相互交流や、県内大学等と海外大学との連携強化を図っていくことが重要です。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止されていた海外との交流を再構築するとともに、オンラインとリアルの長所を活かした新たな交流を促進していく必要があります。

 **視点3 児童・生徒等に対する国際感覚の涵養**

- 施策の方向性⇒オンラインとリアルの長所を活かし、海外の地域や教育機関との国際交流を促進することにより、早期から国際感覚を育て、海外への留学生数の増加や外国人留学生の受入れ拡充につなげます。

主な取組⇒アフターコロナに向けた海外との交流促進

1 高校生の海外交流の状況

- ・本県地域外交の重点国・地域等との継続的な高校生相互交流を進めています。
- ・令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での交流は実施していないものの、オンラインにより交流を継続しています。

ア モンゴルとの交流

- ・平成23年7月 静岡県とモンゴル国ドルノゴビ県において友好協定締結
- ・平成27年8月 県知事とモンゴル教育・文化・科学大臣との間で交流促進のための覚書調印
- ・平成28年4月 受入、派遣を同年に行う確認事項締結

イ 台湾との交流

- ・平成21年9月 4県・市（高雄市、台北縣、高雄縣、嘉義市）との間に協定締結
- ・平成23年3月 3県・市（台中市、彰化縣、台東縣）との間に協定締結

<台湾の高等学校と学校交流を実施した県内高等学校数（オンライン交流含む）>

2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
21校	20校	17校	11校	0校	10校

2 海外修学旅行を実施した高等学校の割合

- ・海外修学旅行を実施した高等学校の割合は、平成29年度35.5%（49校）から令和元年度37.7%（52校）となりましたが、令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施していません。

<海外修学旅行を実施した高等学校の割合（校数）>

2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2025/R7)
35.5% (49校)	39.1% (54校)	37.7% (52校)	0% (実施なし)	0% (実施なし)	40.0%

3 県内大学等における海外大学との交流の状況

- ・ 県内大学等は、コロナ禍にあっても海外との交流を進めており、令和2年度までに、43か国・地域の大学等と305の協定を締結しています。
- ・ 国別内訳の上位3か国は、中国（62件）、アメリカ（34件）、次いで韓国（27件）の順となっています。
- ・ 協定に基づく交流は、オンラインの活用により取組を進めています。

<県内大学等における海外大学との大学間協定累積数>

2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
253 件	272 件	295 件	299 件	305 件	(集計中)

2 施策に関する県と教育機関、地域等との役割分担

区分	役割・取組等
県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学、産業界、地域の連携組織である「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を通じ、海外留学や外国人留学生の受入れを促進する。 ・ 国内外で活躍できるグローバル人材の育成を社会総がかりで支援するため、「ふじのくにグローバル人材育成基金」の活用により、県内の高校生及び教職員の海外留学・海外研修等を促進する。 ・ 県内の大学生や高校生の海外留学や外国人の本県留学に向けた意識の醸成を図るため、留学情報や県内大学の魅力等について積極的な情報発信を行う。
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人留学生の受入れの拡充や海外教育機関との交流協定の締結、学内のグローバル化の体制を整備する。 ・ 学生の海外留学、外国人留学生の受入れに対し、奨学金や寮の整備など必要な支援を行う。
地域・産業界	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」や「ふじのくにグローバル人材育成基金」への寄附を通じ、県内の大学生や高校生、教職員の海外留学・海外研修等を支援する。 ・ 外国人留学生や海外への留学人材を積極的に活用するなど、年齢や性別、国籍などに関わりなく働く意欲のある誰もがその能力を発揮できる環境づくりに取り組む。

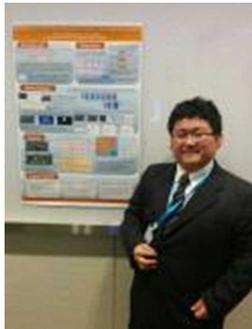
3 主な取組

視点1 グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手の育成

取組名	産学官の連携による海外留学の促進	担当課名	大学課、教育政策課														
目的 (何のために)	産学官の連携を強化し、県内大学生の海外留学を支援するとともに、ふじのくにグローバル人材育成基金を活用し、高校生と教職員の海外体験の促進に取り組みます。																
取組内容（手段、手法など）	取組1：産学官による海外留学支援 (P.26-27 参考資料)																
	(1)「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」への参画 (H29～R3) 静岡県では、文部科学省が行う留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」(R3で募集終了)に参画し、県内大学生の海外留学を支援してきました。																
	<目的> 「未来の静岡県経済界を牽引するグローバルリーダー」の育成を目指し、県内大学等に在籍する日本人学生で、海外留学を希望する優秀な学生に奨学金を給付し、海外留学を支援する。																
	<特徴> <ul style="list-style-type: none"> ・留学の前後や留学中にインターンシップを義務付けるなど、高度かつ実践的な留学プログラム ・企業・大学・行政が連携し優秀な学生を選抜 ・選抜された学生に、企業寄附、県・国の補助金を元に、奨学金を給付 																
	<実施体制> 「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が実施主体となり、広く地域企業・経済団体、金融機関等の協力のもと、地域コーディネーターと協力企業の代表により事業実施委員会を組織した。 実施委員会：事業の方向性を決定 事務局：事業の企画・運営・資金管理等																
	<協力企業> 企業数：21 団体（128 社）、寄附総額：741 万円																
	<採用実績> <table border="1"> <thead> <tr> <th>募集年度</th> <th>2017 (H29)</th> <th>2018 (H30)</th> <th>2019 (R1)</th> <th>2020 (R2)</th> <th>2021 (R3)</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用人数</td> <td>5人</td> <td>6人</td> <td>4人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table>			募集年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	計	採用人数	5人	6人	4人	-	-	15人
	募集年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	計										
	採用人数	5人	6人	4人	-	-	15人										
※R2 は新型コロナウイルスの感染拡大により募集中止 R3 は募集したが応募者がいなかった。																	
<留学実績> カナダ (5)、アメリカ (2)、フィリピン (2)、韓国 (1)、ニュージーランド (1)、イギリス (1)、ドイツ (1)、スペイン (1)、デンマーク (1)、チェコ (1) ※留学先が2か国に渡る事例あり																	

<留学テーマ>

留学先	留学テーマ
カナダ	ファルマバレーを世界の医薬品研究の中心へ
アメリカ合衆国	浜松を起業家の街に
ドイツ	ドイツにおける子どもの貧困対策に学ぶ ～しずおかキッズカフェ×箱舟～
韓国	機械の目で静岡の明るい未来を見通す
フィリピン	途上国から学ぶ日本のライフスキル教育 ～フィリピンから静岡へ～
スペイン	廃校舎と空き家を観光資源に！ 「まつり」で繋ぐ静岡の地域コミュニティと世界の輪。和。話。



↑ 語学学校で静岡茶を PR
← 国際学会に参加

ボランティア施設で宿題の手伝い

<留学後の状況>

県内就職	5人	製造業、情報通信業、サービス業、公務、その他
県外就職	6人	
在学中	4人	—

(2) ふじのくに留学応援奨学金の創設 (R4~)

「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」の終了に伴い、令和4年度から、**本県独自の新たな産学官連携による奨学金制度「ふじのくに留学応援奨学金」を創設**しました。

<目的>

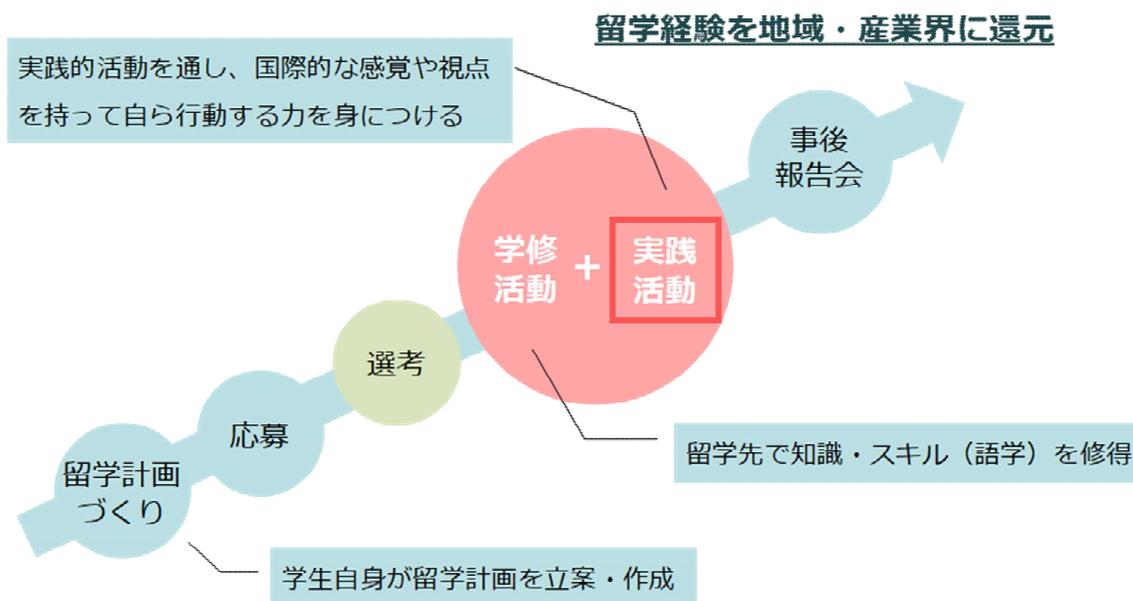
県内の産学官が連携し、「グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手となる人材」を育成する。

<特徴>

- ・①本県の地域課題の解決に寄与する意欲を有する人材、②帰国後、本県が行う留学機運醸成に向けた取組に主体的に参画する人材を支援
- ・派遣留学生は、留学先での実践的活動を通し、主体的な課題解決能力を培い、将来、留学経験を本県の地域・産業界に還元することを目指す。

<制度概要>

プログラム	海外の教育機関における学修活動と現地での実践的活動 (フィールドワーク、ボランティア活動等)
留学期間	中長期(3か月~1年) ※6か月以上を推奨
奨学金額	アジア地域 : 40万 上記以外の国・地域以外 : 50万
財源	県補助金(補助率2/3) + 企業寄附金
採択人数	<事業費300万円と想定> 6人程度/年
実施主体	ふじのくに地域・大学コンソーシアム



取組2：ふじのくにグローバル人材育成事業

(P.28-29 参考資料)

国内外で活躍できるグローバル人材を育成するため、「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用し、高校生及び教職員の海外留学・海外研修等を促進しています。

<令和3年度取組>

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校生の留学や教職員の海外研修は実施できなかったが、海外体験に意欲のある者を後押しするため、オンラインによる交流を実施した。

(1) 大学連携企画留学

米ジョージタウン大学のオンライン英会話プログラムを実施（年2回）

時 期	夏開催	春開催
形 態	Zoom ミーティングによる、1日90分、10日間、計15時間のプログラム	
期 間	①令和3年7月27日～8月7日 ②令和3年8月10日～8月21日	令和4年3月22日～4月2日
応募要件	<ul style="list-style-type: none"> 英語運用能力が、B1 CEFR 以上の実力を有する者 (例) 実用英語技能検定 準1級～2級の中間程度 各種英語資格・検定試験の4技能スコアにより判断 	
参加人数	90人	65人
参加費用	<ul style="list-style-type: none"> 県教育委員会が全額負担 1人あたり65,000円程度（研修費用、教材、サポート含む） 	



Zoom ミーティングを用いたオンライン英会話プログラムの状況

(2) グローバルハイスクール研究指定

学校の特徴を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研修機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定し、オンライン交流による課題研究を実施

高 校	期 間	テーマ	主な取組・交流人数
静岡城北	R3～	グローバル化する社会に目を向け、地域の課題をグローバルな視点でとらえ、解決方法を模索しながら行動する人材の育成	米国など ウィンターセミナーなど (12月) 40人
藤枝西	R1～	国際比較を通して、「日本人としての国際社会での役割」を考える	オーストラリアなど イングリッシュキャンプ (8月) 29人
静岡聖光学院	R3～	夏季の効果的・効率的なエネルギーの利用についての国際比較	オーストラリア オンライン交流 (12月) 19人

浜松湖東	R3～	格差や差別で困っている人と接することで社会問題を理解し、自分との関わりを体験を通して学んでいく	東ティモール オンライン交流 (8月) 5人
浜松湖南	R2～	地域における国際交流や異文化理解・多文化共生を推進する人材の育成	英国など エンパワーメントプログラム(8月) 27人
静岡県西遠女子学園	R2～	現実と仮想のコミュニケーションを融合した地域と世界の課題研究	オーストラリア オンライン交流(随時) 21人



イングリッシュキャンプ



オンライン交流



エンパワーメントプログラム

(3) 海外インターンシップ

静岡銀行の本部と香港支店をオンラインで結び、銀行の国際業務について学習
(新型コロナウイルス感染拡大のため、国内研修のみをオンライン形式で実施)

日 時：令和4年3月23日

参 加：生徒52人、教職員5人

【参考】参加者等アンケート

- (1) 平成28年度参加者に対する追跡調査(令和2年)
 - ・海外体験後、ものの考え方や興味関心が変わった(96.2%)
 - ・後輩にもこの事業による海外体験を勧めたい(100.0%)
- (2) 米ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム・夏開催参加者アンケート(令和3年)
 - ・英語のスピーキング力、リスニング力が向上したという実感が「ある」「どちらかといえばある」と答えた者の割合(96.4%)
 - ・今後、英語外部検定(英検・TOEFLなど)にチャレンジする意欲が「高まった」「どちらかといえば高まった」と答えた者の割合(92.9%)
 - ・プログラムに「満足」「やや満足」と答えた者の割合(98.8%)

<今後の取組>

国際的な感覚や視点を持つ高校生や教職員の育成のため、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を見据えながら、オンラインと実際の海外渡航を組み合わせた海外交流を促進していく。

取組3：ふじのくに海外留学応援フェアの開催

本県における「グローバル人材の育成」のため、平成27年度から、県内の大学生及び高校生等に対し、海外留学に関する講演会や各国大使館等によるミニセミナーを開催しています。

<令和4年度実施計画>

開催日	令和4年12月18日
実施方法	対面とオンライン（Zoom）とのハイブリッド
内容	講演会、大使館等によるミニセミナー・個別相談、留学経験者との交流
参加機関	大使館、留学関連団体 大使館：アメリカ、カナダ、韓国、台湾、中国、ドイツ、フィリピン、フランス（8か国・地域） 留学関連団体：日本学生支援機構、AFS日本協会、日本ワーキング・ホリデー協会（3機関）
実施主体	静岡県、静岡県教育委員会、ふじのくに地域・大学コンソーシアム

<開催実績>

(1) 参加者数の推移

2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
172人	270人	207人	230人	314人	149人	255人

(2) 令和3年度参加者アンケートの状況

参加動機	<ul style="list-style-type: none"> ・留学したい 59% ・保護者の勧め 17% ・先生の勧め 7% ・友人の勧め 7%
満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会 97% ・大使館等によるミニセミナー 93% ・大使館等による個別相談 100% ・留学経験者との交流コーナー 100%
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に留学を経験した人の貴重な話を聞いてよかった。 ・講演会がとてもよかった。留学での生活の様子がよくわかった。 ・詳しい留学制度や仕組み、体験談など多くの情報を知ることができた。 ・自分で収集しようとしても集められない内容を聞くことができた。
海外留学の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ある 10% ・具体的に決まっていない 51%



講演会



個別相談



留学経験者との交流

視点2 外国人留学生の受入れ拡充に向けた入口から出口までの一体的な支援の強化

取組名	外国人留学生の受入れ・定着促進	担当課名	大学課
目的 (何のために)	本県への留学促進に向けた積極的な情報発信を行うとともに、滞在サポートや交流支援、就職支援など、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する留学生支援事業への支援を通じ、就職（出口）の成果が外国人留学生の受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムを構築します。		

取組1：ふじのくに地域・大学コンソーシアムによる留学生支援事業 (P.30-32 参考資料)

本県では、ふじのくに地域・大学コンソーシアムに専門人材を配置し、県内大学等と連携して外国人留学生の支援、海外留学の促進など大学のグローバル化に取り組む体制を構築し、留学生の受入れから滞在・就職支援まで、「入口から出口まで」の一体的な支援を行っています。

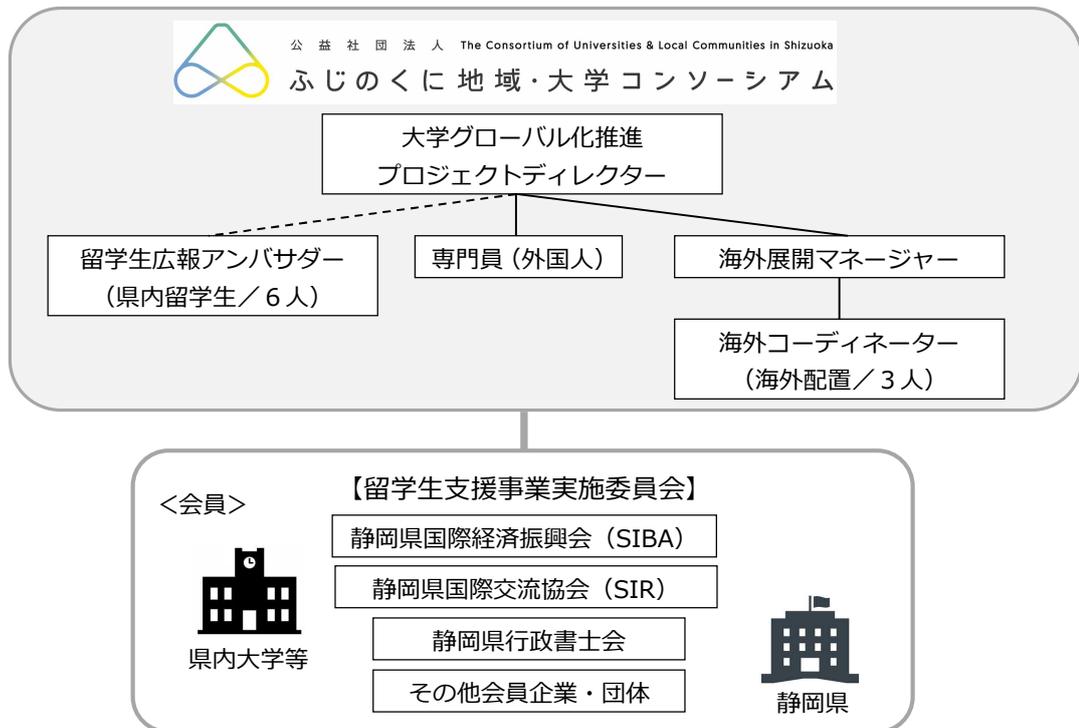
<留学生支援の方向性>

大学間連携による『入口と出口の一体的な取組の強化』
～就職（出口）の成果が留学生受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムの構築～



- 静岡のよさを知る留学生や海外人材の活用による静岡の認知度向上
- 留学生支援（生活・滞在支援等）の大学間格差の解消
- 手厚いサポート体制による留学先としての魅力向上
- 更なる留学生獲得に向けた静岡就職・定着のロールモデルの発信・活用

<実施体制>



取組内容（手段、手法など）

取組内容（手段、手法など）

<事業内容>

入口	<p>受入促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○留学ガイドブック、静岡キャンパスマップの制作 <ul style="list-style-type: none"> ・電子ブックをコンソーシアムホームページに掲載 ○静岡県大学進学フェアの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の日本語学校・専門学校に在籍する留学生を対象 オンラインと対面で開催 ○海外コーディネーターによる静岡留学促進事業
滞 在 中	<p>生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○静岡県行政書士会によるビザ・コンサルティングサービス <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の無料相談会の開催、電話相談 ・会員校に行政書士を派遣し、講習や相談等を会員校単位で実施 ・就職支援事業等での参加企業や学生からの相談対応 ○生活基盤づくり講座（防災、生活マナー、交通ルール等）の開催 ○勉学環境サポート事業（無料コピーサービス）の実施
	<p>育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際交流イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・留学生⇄日本人学生の交流・日本文化の理解促進（バスツアー） ・留学生⇄社会人の交流による職業観の形成（R4 新規事業） ○日本語能力向上事業 <ul style="list-style-type: none"> ・JLPTN1 合格補助や、日本語スピーチ発表の機会の提供
出 口	<p>就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就職支援講座の開催（SIR に委託） <ul style="list-style-type: none"> ・本県の産業・企業、就活の基礎知識、OG・OB 交流、面接体験 等 ○企業見学会の開催（SIBA に委託） <ul style="list-style-type: none"> ・就職まで2年以上ある留学生を対象としたバスツアー ○インターンシップ・就職マッチング（SIBA に委託） <ul style="list-style-type: none"> ・SIBA キャリアサポートセンターと連携した県内企業とのマッチング ○企業交流会の開催（SIBA に委託） <ul style="list-style-type: none"> ・留学生、留学経験のある日本人学生と企業との交流 浜松、静岡、三島で開催 ○その他、産学官の連携による就職促進事業の実施
	<p>広報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SNS を活用した情報発信 ○留学生広報アンバサダー（6人）による情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・各自の SNS で #Study in Shizuoka を付け、静岡での大学生活やコンソーシアムのイベント等を発信

<留学生支援事業への参加者数>

2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2025/R7)
374人	418人	501人	378人	355人	500人



受入促進事業



国際交流イベント



取組2：留学生デジタルプラットフォーム構築事業

コロナ禍で激減した留学生の獲得と定着の強化に向け、アフターコロナを見据えた留学生支援の充実を図るため、DXと対面の効果的な融合により、就職（出口）の成果が留学生受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムを構築します。

（令和4年度新規事業／地方創生推進交付金活用）

<目的>

- ・海外学生のニーズを把握・分析し、ウェブやオンラインを活用した情報発信を強化することにより、「静岡県」「静岡の大学」への興味を喚起する。
- ・ニーズを可視化し、選びやすい状況にする過程で静岡留学への意識付けを行うとともに、将来のキャリアを静岡県で実現するイメージを与え、県内への入学促進と定着増を図る。

<事業概要>

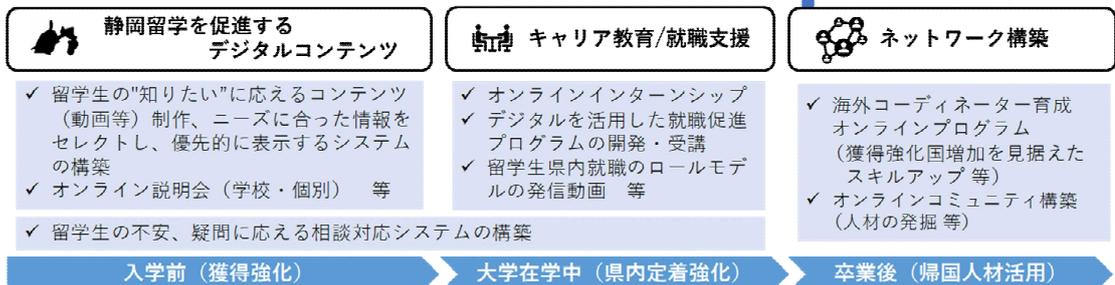
DXの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムに、本県留学に関する総合窓口としてのデジタルプラットフォームを構築する。 ・多言語ウェブシステムとし、留学生の「知りたい」に応える学び、生活、就職などのコンテンツを掲載するほか、オンライン相談システムやFAQ（よくある質問に対するQ&A）を導入する。 ・デジタルを活用した就職促進プログラムを開発し、反復学習を可能にするとともに、学び上でのインターンシップや企業との交流を行う。 															
対面との融合	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムに、海外部門を統括する「海外展開マネージャー」を配置するほか、本県への留学経験がある現地人材等を「海外コーディネーター」として獲得強化国に配置し、デジタルプラットフォームを活用したリクルーティングを強化する。 ○海外教育機関に対する県内大学進学説明会の実施計画 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2022 (R4)</th> <th>2023 (R5)</th> <th>2024 (R6)</th> <th>2025 (R7)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>強化国</td> <td colspan="2">ベトナム、インドネシア、スリランカ（3か国）</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">（4か国）</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>150人</td> <td>180人</td> <td>210人</td> <td>240人</td> </tr> </tbody> </table>		2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	強化国	ベトナム、インドネシア、スリランカ（3か国）		（4か国）		参加者数	150人	180人	210人	240人
	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)												
強化国	ベトナム、インドネシア、スリランカ（3か国）		（4か国）													
参加者数	150人	180人	210人	240人												
ネットワークの構築と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前、在学中から卒業後も利用できるオンラインコミュニティを構築し、プラットフォームを活用した人材発掘や育成を行う。 															

◆ 推進体制

<留学生デジタルプラットフォームを活用した海外教育機関へのリクルーティング強化>



◆ プラットフォームのイメージ



取組3：さくらサイエンスプログラムの実施

科学技術振興機構が実施する「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」を活用し、アジア地域の青少年を日本に招聘し、科学技術分野での交流を深めることにより、本県への留学意識の醸成を図り、県内大学等への外国人留学生の受入れを促進します。

<令和4年度実施計画>

開催日	令和4年12月4日～10日
参加者	インドネシア西ジャワ州の高校生 8人 ※西ジャワ州と本県は、平成29年に「人材育成と経済分野での協力推進に係る覚書」を締結した。
テーマ	「健康長寿世界一を目指して」
実施内容	・県内大学等による講義、研究室訪問、学生との交流 ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムによる留学説明 ・県内施設見学
訪問先	静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、東海大学海洋学部、 順天堂大学保健看護学部、国立遺伝学研究所、 ふじのくに地球環境史ミュージアム、静岡県富士山世界遺産センター 等

<招へい実績>

2021 (R3)	インドネシア西ジャワ州の高校生を対象としたオンラインサイエンスプログラムの実施（参加者数：20人）
2020 (R2)	インドネシア西ジャワ州の高校生・大学生を対象としたオンライン進学説明会の実施（参加者数：1,213人） ※新型コロナウイルス感染症による代替事業
2019 (R1)	インドネシア西ジャワ州の高校生を対象としたサイエンスプログラムの実施（参加者数：8人）
2016～18 (H28～30)	モンゴルの高校生を招聘したプログラムを実施（参加者数：計24人）

<成果>

- ・令和元年度のプログラムに参加したインドネシアの高校生1名が、文部科学省国費外国人留学生として、令和4年度内に来日予定



研究室訪問



留学生との交流



施設見学

取組4：国際学生寮モデル事業

県内大学においては、外国人留学生の住居の確保が課題となっています。そこで、平成31年2月に、県内外の国際学生寮の整備事例をまとめ、県内大学等で共有しました。さらに、県が中心となって、既存の施設を改修（リモデル）した外国人留学生と日本人学生の混住型モデル寮をつくり、他大学にノウハウの横展開を図ります。

<改修概要>

施設名称	静岡県立大学つつじヶ丘国際学生寮（静岡市清水区草薙） （地上2階建（RC造、昭和54年建築））	
改修内容	4LDK（世帯用）×4 ⇒ （個室4室＋共有D）×3＋交流スペース ※12名の学生が入居可能	
	2階	ユニット（個室4室＋共有D）×2
	1階	ユニット（個室4室＋共有D）×1、 交流スペース（ラウンジ、キッチン等）、洗濯室
予算額	4,759万円（R2：設計、R3：改修工事／補助率10/10）	
完成年月	令和4年2月	
その他	【新型コロナウイルス感染防止対策】 ①玄関を増築し、下足を脱ぎ自動水栓で洗浄後に寮に入る。 ②交流スペースを拡大し、利用時の社会的距離を確保できるよう配慮。現在部屋の外にある階段を屋内階段とする改修を行う。 ③ユニット内は個室とし、エアコンを設置	

<運営概要> ※令和4年4月から入寮開始

愛称	富学寮（ふがくりょう） ※学内公募による
入寮定員	12人
居住形態	日本人学生と外国人留学生の混住型
入寮資格	県立大学の学部、大学院、短期大学部の正規生、外国人留学生 ※交換留学生を優先
入寮期間	1年
寮内構成	各ユニット（個室4室）は原則、同性の日本人学生2人及び留学生2人
運営体制	○レジデントアシスタント（RA） ・管理人の代わりに、入寮者の生活支援及び寮内外の交流促進に携わる学生1人を配置し、寮生に対する共同生活上の指導、助言及び支援、寮内外の交流イベントの企画・運営、緊急時及び災害時の初期対応等を行う。 ○ユニットリーダー ・ユニットごとにリーダー（3人）を設け、レジデント・アシスタントの活動をサポート

<入居者の状況>

入寮者	人数	備考
海外協定校からの 交換留学生	6人	R4 前期 トルコ1人、フィリピン1人、ロシア1人 R4 後期 トルコ5人
国費留学生		R4 後期 バングラデシュ1人
正規生	5人	日本人4名、マレーシア1人
レジデントアシスタント (RA)	1人	ユニット内に居住



外 観



個 室



交流スペース
(奥はアイランドキッチン)

<今後の展開>

モデル寮整備 (～R3)

○モデル寮の運営 (R4～)

実験・検証

- ・管理運営のノウハウ
- ・混住型、シェアハウス型学生寮の教育効果
- ・整備、運営コスト
- ・地域住民や他大学との交流
- ・県内大学等に実施状況を報告し、情報共有するとともに、新たな活用方法等について検討

県内大学等との情報共有

【県内大学等】

- ・モデル寮の検証事例を踏まえ、既存施設を活用した留学生の住環境整備を具体的に検討

【県立大学】

- ・「国際交流会館」整備に向けた具体的検討

視点3 児童・生徒等に対する国際感覚の涵養

取組名	アフターコロナに向けた海外との交流促進	担当課名	大学課、高校教育課																																																		
目的 (何のために)	異文化に触れ、外国の歴史・文化や習慣などを理解し、国際感覚を身につけた人材を育成するため、高等学校の海外修学旅行等を促進するとともに、県内大学等における海外大学との交流や短期留学生交流を推進します。																																																				
取組内容 (手段、手法など)	取組1：高等学校における国際感覚の涵養 地域外交の重点国・地域等との継続的な国際交流を推進するとともに、高等学校の海外修学旅行を促進しています。																																																				
	(1) 国際交流の推進 オンラインを含めた学校間交流や留学の促進などにより、国際交流の機会を提供し、国際的な視野を持つ人材を育成しています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、相互訪問は中止し、主にオンラインによる交流を実施しました。																																																				
	ア モンゴル国ドルノゴビ県との高校生相互交流 県立高校生（生徒会活動等）の企画により、ドルノゴビ県ヘランドセルを寄贈したほか、オンライン交流を実施（1月）																																																				
	イ 台湾との学校間交流 県立高校（8校）がオンライン交流を実施																																																				
	(2) 海外修学旅行の促進 外国の歴史・文化や習慣などを理解し、国際感覚を身につけた生徒を育成するため、高等学校の海外修学旅行を促進しており、令和元年度は、学校実施率が全国1位、生徒参加率が全国3位となっています。令和2・3年度は海外修学旅行を実施していませんが、新型コロナウイルス感染症の状況を見据え、再開を目指しています。																																																				
	ア 令和元年度海外修学旅行の実施状況（（公財）全国修学旅行研究協会調査）																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">全体（主に高2生）</th> <th colspan="2">海外実績</th> <th rowspan="2">学校 実施率</th> <th rowspan="2">全国 順位</th> <th rowspan="2">生徒 参加率</th> <th rowspan="2">全国 順位</th> </tr> <tr> <th>校数</th> <th>生徒数</th> <th>校数</th> <th>生徒数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">静岡県</td> <td>公立</td> <td>95</td> <td>21,669</td> <td>31</td> <td>5,164</td> <td>32.6%</td> <td>2</td> <td>23.8%</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>43</td> <td>10,441</td> <td>21</td> <td>3,792</td> <td>48.8%</td> <td>9</td> <td>36.3%</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>138</td> <td>32,110</td> <td>52</td> <td>8,956</td> <td>37.7%</td> <td>1</td> <td>27.9%</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>4,922</td> <td>1,055,598</td> <td>898</td> <td>155,535</td> <td>18.2%</td> <td>-</td> <td>14.7%</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>				全体（主に高2生）		海外実績		学校 実施率	全国 順位	生徒 参加率	全国 順位	校数	生徒数	校数	生徒数	静岡県	公立	95	21,669	31	5,164	32.6%	2	23.8%	3	私立	43	10,441	21	3,792	48.8%	9	36.3%	11	合計	138	32,110	52	8,956	37.7%	1	27.9%	3	全国	4,922	1,055,598	898	155,535	18.2%	-	14.7%	-
		全体（主に高2生）			海外実績		学校 実施率	全国 順位					生徒 参加率	全国 順位																																							
		校数	生徒数	校数	生徒数																																																
	静岡県	公立	95	21,669	31	5,164	32.6%	2	23.8%	3																																											
私立		43	10,441	21	3,792	48.8%	9	36.3%	11																																												
合計		138	32,110	52	8,956	37.7%	1	27.9%	3																																												
全国	4,922	1,055,598	898	155,535	18.2%	-	14.7%	-																																													
イ 行き先校数 ※複数の行き先がある学校があるため、アの校数と一致しない																																																					
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>公立</td> <td>台湾 19、シンガポール 8、ハワイ 6、マレーシア 5、米国本土 4、オーストラリア 1、オーストリア 1、イタリア 1</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>シンガポール 5、米国本土 4、台湾 4、ハワイ 3、カナダ 2、グアム 2、マレーシア 2、フィリピン 1、オーストラリア 1、カンボジア 1、ベトナム 1、インドネシア 1、フランス 1、オランダ 1</td> </tr> </tbody> </table>			公立	台湾 19、シンガポール 8、ハワイ 6、マレーシア 5、米国本土 4、オーストラリア 1、オーストリア 1、イタリア 1	私立	シンガポール 5、米国本土 4、台湾 4、ハワイ 3、カナダ 2、グアム 2、マレーシア 2、フィリピン 1、オーストラリア 1、カンボジア 1、ベトナム 1、インドネシア 1、フランス 1、オランダ 1																																															
公立	台湾 19、シンガポール 8、ハワイ 6、マレーシア 5、米国本土 4、オーストラリア 1、オーストリア 1、イタリア 1																																																				
私立	シンガポール 5、米国本土 4、台湾 4、ハワイ 3、カナダ 2、グアム 2、マレーシア 2、フィリピン 1、オーストラリア 1、カンボジア 1、ベトナム 1、インドネシア 1、フランス 1、オランダ 1																																																				
ウ 期間 3泊又は4泊																																																					

取組 2 : 浙江省との短期留学生交流

本県と友好提携関係にある中国浙江省との教育交流を深め、大学・学生交流を促進するため、平成 20 年度から短期留学生交流を実施しています。

<令和 4 年度実施計画>

	浙江省からの受入れ	静岡県からの派遣		
募集人数	12人以内	12人以内		
留学生受入れ大学	ふじのくに地域・大学 コンソーシアムに加盟する大学	浙江工商 大学	浙江理工 大学	浙江万里 学院
留学期間	90日以内 (9~12月)	2週間 (9月)	3か月間 (10~12月)	2週間 (3月)
参加人数	12名以内	12名以内		
滞在宿舍	もくせい会館研修宿泊室	各大学が設置する寮		
学習内容	大学が留学生に受講可能科目を 提示し、留学生が科目を選択	中国語講座 中国文化、歴史講座		
受入れ大 学の決定	受入れ希望大学	-	-	-

※新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し、12月までの派遣及び受入れを中止
令和 5 年 3 月派遣については、令和 4 年 10 月に実施可否を判断

<交流実績>

(1) 交流人数

浙江省からの受入れ (H20~R1)	静岡県からの派遣 (H21~R1)			
	14日	3か月	1か月	計
123人	63人	8人	1人	72人

※R2~3 は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により受入れ・派遣とも中止

(2) 成果

浙江省からの受入れ	静岡県からの派遣
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語関係又は日系企業への就職 26人 <ul style="list-style-type: none"> （日本語講師 7人） （日本語の翻訳 2人） （日系企業への就職 17人） ・ 日本の大学又は大学院への進学 10人 <ul style="list-style-type: none"> （静岡県立大学大学院 4人） （常葉大学 1人） （その他大学・大学院 5人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国の大学への留学 2人 <ul style="list-style-type: none"> （浙江万里学院 1人） （浙江理工大学 1人）



取組3：COIL型教育を活用した大学間交流形成支援

静岡県立大学は、文部科学省が実施する「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等の大学間交流形成支援～」(静岡県立大学を含む3大学による共同申請事業)に採択され、先駆的な取組を実施しています。

※「COIL」とは

オンライン教育手法の進化を国際的な大学間交流に応用した、国際的・双方向的な新しい教育実践の方法。ICTツールを活用し、海外の学生と様々な分野のプロジェクトをバーチャルに連携しながら実施することで、国内に居ながら海外大学の学生と協働して学習する。

Collaborative (協働・交流) Online (オンライン) International (国際) Learning (学習)

<事業概要>

(1) 事業の目的

①学生へのグローバル教育機会の提供、②連携大学と地域社会の資源を活用した多層的な学生交流の推進、③国際協働オンライン学習プログラムの第3国への展開を通じた途上国での教育格差是正への貢献を目標とし、オンライン教育(COIL)を利用した遠隔教育と交流事業を軸に、日本・米国の大学間連携を図る。

(2) 参加校

日本(申請校3校)	上智大学【代表申請大学】、お茶の水女子大学、静岡県立大学
米国 (申請校の協定校を中心とした10校)	カリフォルニア大学デービス校※、ボストン・カレッジ、シアトル大学、ロヨラメリーマウント大学、ゴンザガ大学、ポートランド大学、ノースカロライナ大学シャーロット校、マルケット大学、サンフランシスコ大学、ヴァッサー大学 ※県立大と協定

(3) 主な実施内容

①COILを活用したモビリティ・プログラム(交換留学・日本人学生派遣)	・留学+COIL 留学準備・フォローアップ(準備講座を3大学が共同開発、交流は各大学の米国連携大学と実施) ・3大学合同でカリフォルニア大学デービス校の短期派遣プログラムに学生を派遣
②国内循環型の留学生受入(上智大・お茶の水女子大で受け入れた留学生が3大学を移動)	インターンシップでの学修※ (協力団体:静岡県国際経済振興会、静岡県国際交流協会) ※上智大学は英語による授業、お茶の水女子大学は日本語教育を担当
③授業科目へのCOIL導入	課題発見型授業科目にCOILを導入 (R4:看護学部専門科目「卒業研究(国際看護)」「卒業研究(成人看護、老年看護、国際看護)」、大学院薬食生命科学総合学府「生体情報分子解析学特論」等)



取組4：オンラインを活用した新しい国際交流

静岡文化芸術大学では、新型コロナウイルス感染症により国外への移動が制限され、現地での交流が困難な状況下において、オンラインを活用した新しいスタイルの国際交流を提案し、実施しています。

(1) ジャパン・ハウス サンパウロ (ブラジル) とのオンライン・インターンシップ**<概要>**

外務省と静岡県、ブラジル静岡県人会が連携する「ブラジル青年派遣事業」に海外インターンシップとして参加。毎年テーマを決め、日本の魅力を伝えるために学生が調査、提案、発表を行う。平成30年度以降、これまでに22人の学生が参加し、11人をブラジルに派遣した。コロナ禍以降は、大学と現地を繋ぐオンラインでの発表を行った。

<令和3年度実績>

実施期間：令和3年9月8日～令和4年1月18日

課題テーマ：ガストロノミー（食文化）

参加学生：7人

実施内容：参加学生は、浜松市や焼津市、神奈川県で現地調査するなど、約半年間にわたり調査・研究を行い、若者の視点から捉えた日本の食文化の魅力をJHS職員らに向けて発表した。

**(2) 産学共同国際デザインワークショップ****<概要>**

トルコ・イズミル経済大学とポーランド・ワルシャワ美術アカデミーの学生とチームを組んで、デザイン提案を行うワークショップ

<令和3年度実績>

開催期間：令和3年9月6日～9月10日

会場：舞阪協働センター、静岡文化芸術大学構内（海外の学生とはオンラインで通信）

参加学生：静岡文化芸術大学13人、イズミル経済大学6人、ワルシャワ美術アカデミー5人 計24人

実施内容：弁天島海浜公園や浜松城で実証実験が進められてきた「駐車場をコワーキングスペースとして活用し新たな働き方を提案するテレワークパーク」に対するPSS（Product, Service and System）をテーマとし、海外の学生とともに遠隔ツールを使いながら協働してPSSデザインを提案した。

協力・後援：浜松市、We will accounting associates(株)、

スズキ(株)、(株)東海理化、

浜松テレワークパーク実現委員会



4 主要事業

事業名	重点項目	2022 予算額(千円)
未来を切り拓く多様な人材育成推進事業費	本県の将来を担うグローバル人材及び地域を支える人材を育成・確保するため、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する大学間連携事業への助成 等	67,400
	産学官連携による海外留学促進事業	2,320
	海外留学応援フェア開催事業	1,400
	さくらサイエンスプログラム事業	3,000
	留学生デジタルプラットフォーム構築事業	15,320
	留学生支援関係事業	12,630
	浙江省との短期留学生交流事業	2,000
	グローバル人材育成関連事業費(内数)	36,670
グローバル人材育成事業費	グローバル教育の充実を図り、将来国内外で活躍できる人材を育成するため、高校生の海外留学や海外インターンシップ、教職員の海外研修等への支援	45,000
	海外体験の促進事業 (長期留学、短期留学、大学連携企画留学)	14,500
	教職員の海外研修	6,000
	グローバルハイスクール研究指定	14,000
	海外インターンシップ	9,000
	ものづくり等の世界大会参加	1,500
青少年の国際交流推進事業費	モンゴル国ドルノゴビ県との高校生相互交流事業	9,292
その他取組を含めた合計 (うち、グローバル人材育成関連事業費)		121,692 (90,962)

<国の海外留学促進に向けた動き>

大学の国際化に関する提言・閣議決定
日本再興戦略～JAPAN is BACK～

(平成25年6月14日閣議決定)

第Ⅱ. 3つのアクションプラン

一. 日本産業再興プラン 2. 雇用制度改革・人材力の強化

⑦グローバル化等に対応する人材力の強化

世界に勝てる真のグローバル人材を育てるため、「教育再生実行会議」の提言を踏まえつつ、国際的な英語試験の活用、意欲と能力のある若者全員への留学機会の付与、及びグローバル化に対応した教育を牽引する学校群の形成を図ることにより、**2020年までに日本人留学生を6万人(2010年)から12万人へ倍増**させる。優秀な**外国人留学生についても、2012年の14万人から2020年までに30万人に倍増**させること(「留学生30万人計画」の実現)を目指す。

○意欲と能力のある若者全員への留学機会の付与

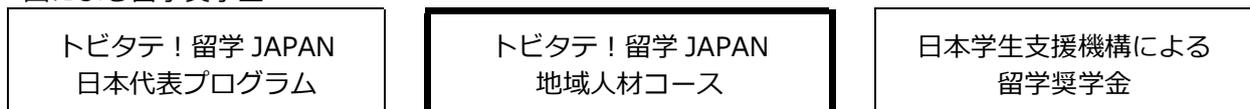
- ・高校・大学等における留学機会を、将来グローバルに活躍する意欲と能力のある若者全員に与えるため、**留学生の経済的負担を軽減するための寄附促進、給付を含む官民が協力した新たな仕組みを創設**する。また、支援策と併せて、姉妹校締結や海外の大学と単位互換の取組等、大学の教育環境整備を進める…(以下、略)

<トビタテ!留学 JAPAN>

1 目的

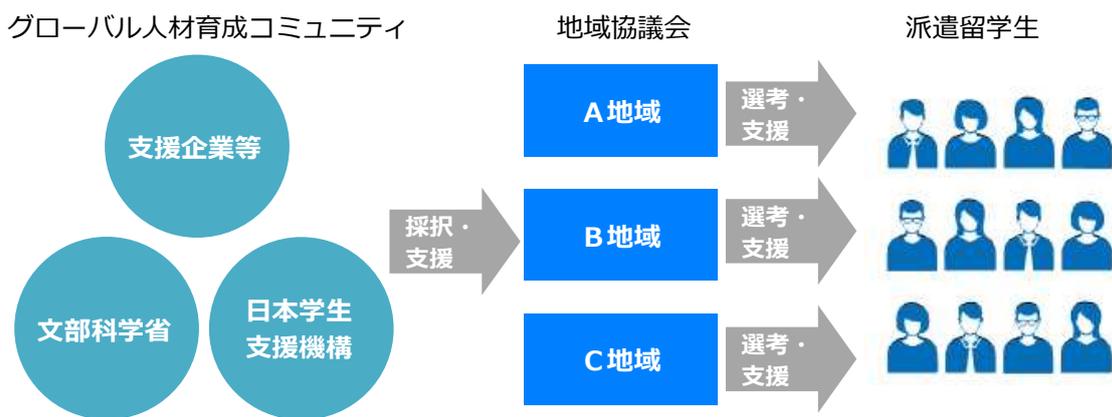
意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す機運を醸成することを目的として、文部科学省が2013(平成25)年10月より開始した留学促進キャンペーン。政府だけでなく、社会総掛かりで取り組むことにより大きな効果が得られるものと考え、民間企業や個人からの支援や寄附などにより、将来世界で活躍できるグローバル人材を育成する。

2 国による留学奨学金

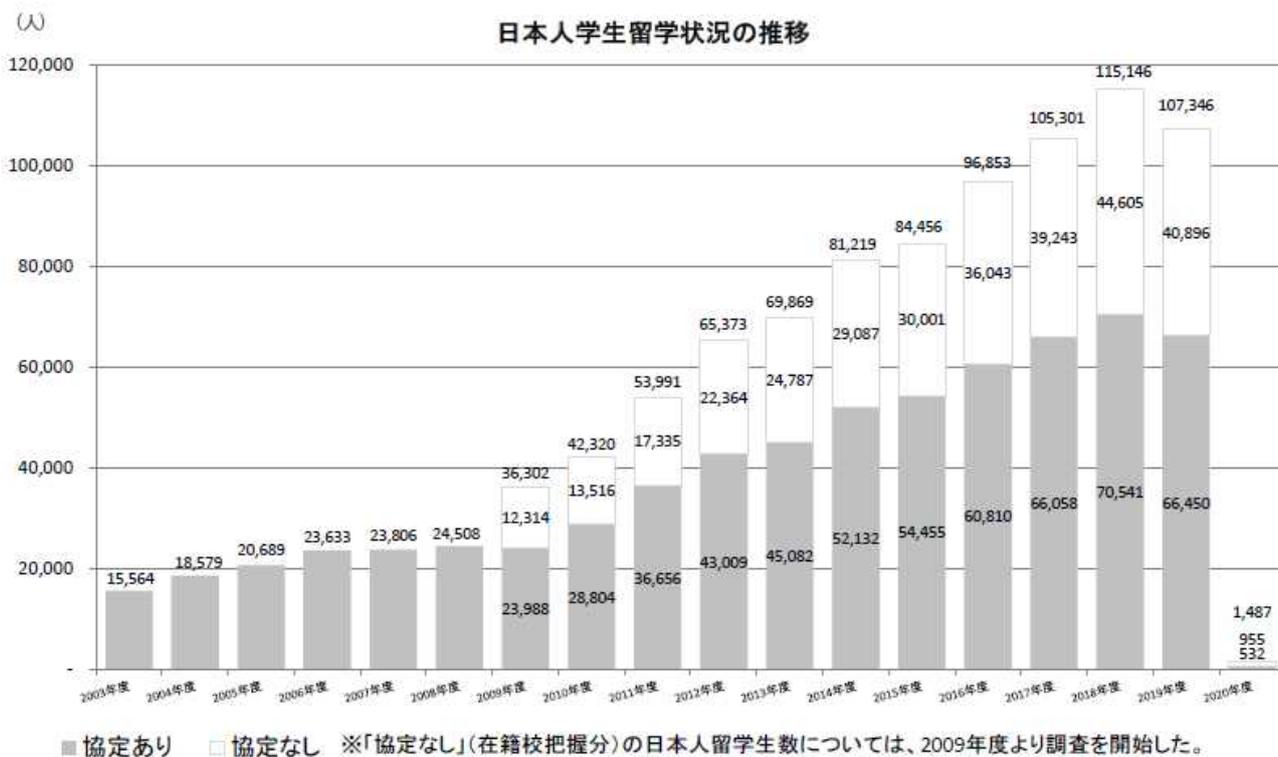


特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「グローバル」な視点をもって「ローカル」(地域)の発展に貢献する、グローバルリーダー候補を応援する。 ・「海外での実践的な留学」と「国内の地域企業等でのインターンシップ」を組み合わせ、地域の特徴を活かした地域人材コース独自のプログラム ・「地域」の産学官が連携し、主体となって運営
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ○奨学金 *家計基準により金額は異なる。 <ul style="list-style-type: none"> ・北米、シンガポール、欧州、中近東等 16万円/月 ・アジア(シンガポールを除く)・大洋州・中南米・アフリカ等 12万円/月 ○留学準備金 <ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後研修参加費 ・往復渡航費(アジア地域:10万円、左記以外:20万円) ○授業料 <ul style="list-style-type: none"> ・上限30万円

3 スキーム



<日本人学生留学状況の推移>



(出典：2020（令和2）年度日本人学生留学状況調査結果／日本学生支援機構)

<ふじのくにグローバル人材育成基金>

1 概要

平成 28 年 4 月、「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設し、高校生の海外留学や海外インターンシップ、教職員の海外研修等に活用

2 基金の状況

(1) 基金運営

(単位：千円)

区分名	年度 2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
県費	110,000	17,099	20,000	20,000	20,000	20,000
寄付金+運用益	61,553	18,901	17,459	16,408	12,334	13,620
小計	171,553	36,000	37,459	36,408	32,334	33,620
事業費	18,879	37,993	36,636	36,601	4,527	20,355
基金残高	152,674	150,681	151,504	151,311	179,118	192,383

(2) 寄附実績

(単位：件、人、千円)

件数等	年度 2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
法人・ 団体関係	件数 35	41	41	46	35	29
	寄附金額 59,920	16,709	15,400	15,418	11,983	12,030
ふじのくに 応援寄附金	人数 106	144	104	58	26	100
	寄附金額 1,610	2,190	2,020	985	320	1,226
合計	61,530	18,899	17,440	16,403	12,303	13,256

3 グローバル人材育成事業

(1) 国際感覚豊かな人材の育成

区分	内容	期間
高校生の 海外体験 促進 (留学)	長期留学	海外の教育機関等で語学などの専門分野の留学を体験
	短期留学	(企画留学) 学校、市町、NPO等の民間が実施する語学研修やボランティア活動等に参加 (静岡県関連事業留学) 県及び県教委が主催、共催、後援又は募集している事業に静岡県代表として参加
	大学連携 企画留学	海外大学と連携して、大学が実施する各種留学・語学研修等に参加
教職員の海外研修	(本人企画) 教職員が海外での教育機関等で専門分野や現代的な課題の研究等を実施 (県企画) 小学校教員の英会話力向上、異文化や共生教育への理解に向けた語学研修を実施	1年程度 1週間以上 1か月程度未満
グローバルハイスクール 研究指定	学校の特色を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研修機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定	2年程度

(2) ものづくり県の次代を担う人材の育成

区分	内容	期間
海外インターンシップ	県内企業の海外支社(普通科)、海外工場(専門学科等)における就労体験等を実施	国内(2日間) 海外就労体験 (3泊4日)
ものづくり等世界 大会参加	ロボット競技等のものづくりに関する世界大会へ参加 【対象】専門学科等の生徒	必要日数

4 事業実績

区 分		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
高校生の 海外体験 促進 (留学)	長期留学	5人	6人	5人	5人	募集中止	募集中止
	短期留学	23人	43人	22人	31人	募集中止	募集中止
	大学連携 企画留学	5人 +引率1人	10人 +引率1人	29人 +引率3人	29人 +引率3人	募集中止	155人 春・夏開催 ※1
教職員の海外研修		6人	8人	9人	16人	募集中止	募集中止
グローバル ハイスクール 研究指定		2校 37人	3校 108人	3校 112人	1校 23人 +引率3人	3校 82人 ※2	6校 141人 ※2
		掛川西 日大三島	掛川西 日大三島 浜松開誠館	掛川西 日大三島 浜松開誠館	浜松開誠館	藤枝西 浜松湖南 西遠女子	藤枝西 静岡城北 浜松湖南 浜松湖東 西遠女子 静岡聖光
海外インターンシップ		15人 +引率3人	43人 +引率8人	36人 +引率6人	38人 +引率6人	募集中止	52人 +教員5人 ※2
ものづくり等世界大会		2人	3人	0人	0人	0人	0人
人数計		97人	230人	222人	154人	82人	353人
事業額(千円)		18,879	37,993	36,636	36,601	4,527	20,355

※1 米ジョージタウン大学オンライン英会話プログラムの実施 1日90分、週5回、2週間

※2 海外派遣なし、オンライン交流等

<ふじのくに地域・大学コンソーシアム>

1 組織概要

(令和4年6月現在)

名 称	公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム		
沿 革	平成 26 年 3 月 ふじのくに地域・大学コンソーシアム設立 平成 26 年 4 月 一般社団法人化 平成 27 年 4 月 公益社団法人化		
組 織 ・ 役 員	理 事 会	理 事 長	静岡大学長
		副 理 事 長	静岡県立大学長、浜松医科大学長、常葉大学長
		理 事	静岡産業大学長、静岡理工科大学長、沼津工業高等専門学校長、静岡市企画局長、静岡県教育委員会教育長
	監 事	東海大学静岡キャンパス長、静岡県総合教育局長	
会 員	正 会 員	大学等21校、静岡県、県教育委員会、静岡市 外20市町、行政書士会	
	準 会 員	(公財) 静岡県舞台芸術センター、静岡トヨタ自動車(株)、(株)日本経済新聞社、丸福製茶(株)、(一社) 日本自動車連盟静岡支部	
	賛 助 会 員	(株)静鉄アド・パートナーズ他 外10団体	
協 力 団 体	静岡県市長会 外11団体		
そ の 他	産学官連携による海外留学支援企業 128社		

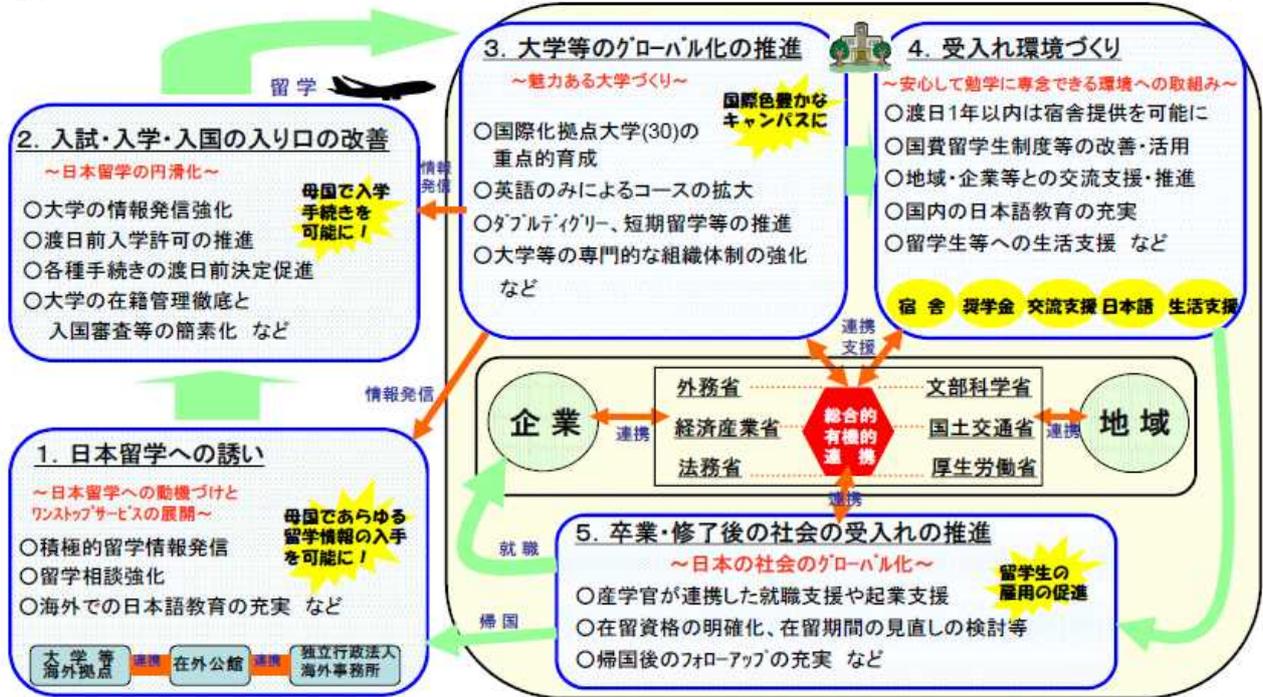
2 事業概要

事業区分	内 容
教育連携	大学間相互の連携と交流を促進し、教育内容の充実を図るとともに、静岡の地域資源をテーマとする多様な学習機会を提供する。 <短期集中単位互換授業> <小中高大連携推進事業> <西部地域連携事業>
共同研究	大学の研究力の向上と地域貢献の推進を図るため、本県の地域資源や課題解決に取り組む研究に対して助成する。 <共同研究助成事業> <ふじのくに学創出研究事業>
地域貢献	大学と地域の交流の拡大を促進し、大学の知の地域への還元及び県内地域の振興に寄与するため、県内の地域課題について、課題解決のための実践的な研究を行う。 <ゼミ学生等地域貢献推進事業>
国際交流	県内大学での留学生数の増加と学生の海外留学を促進するため、留学生の受入れ・交流支援や海外留学支援を行う。 <留学生交流事業> <留学生受入れ促進事業>
学生支援	学生・留学生の県内企業への就労を支援するため、企業交流会やインターンシップを開催する。 <留学生支援事業> <インターンシップ推進事業> <グローバル人材育成事業>
機関交流	大学職員の資質向上のため、複数大学が合同で職員研修を行う。 <合同SD研修事業> <西部地域FD情報交換事業>
情報発信	共同研究や地域貢献等の成果を広報するため、フォーラムやインターネットを通じた情報発信を行う。 <地域研究成果発信事業(ふじのくに地域・大学フォーラム)> <広報事業>

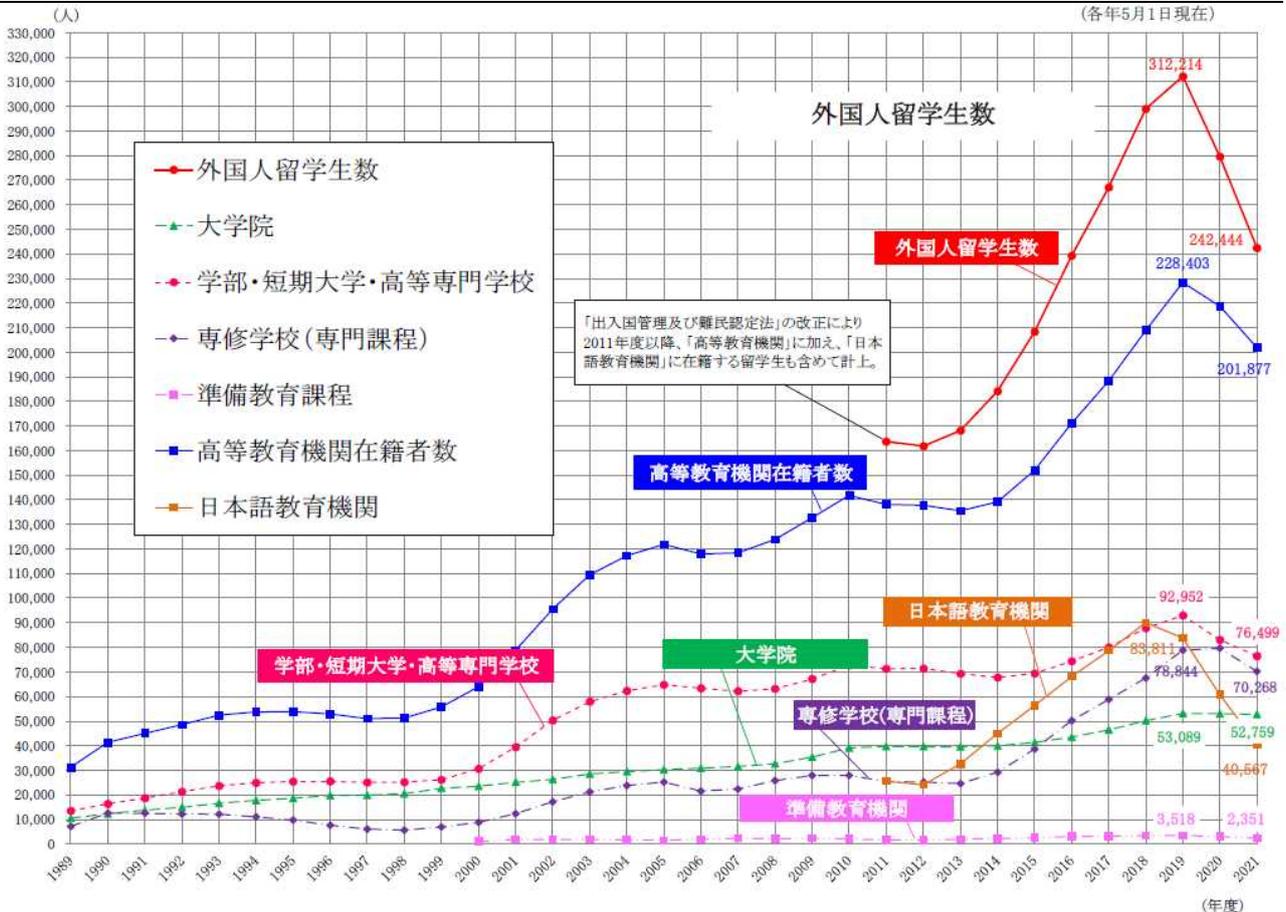
<「留学生 30 万人計画」骨子の概要>

(平成20年7月29日 文部科学省、外務省、法務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省)

- ポイント**
- ☆ 「グローバル戦略」展開の一環として**2020年**を目途に留学生受入れ**30万人**を目指す。
 - ☆ 大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得。
 - ☆ 関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進



<留学生数の推移>



(出典：2021 (令和3) 年度外国人留学生在籍状況調査結果/日本学生支援機構)

<留学生の出身国別の状況>

【出身国上位比較】

順位	全 国 (2021 (R3) .5.1現在)		静 岡 県 (2021 (R3) .5.1現在)	
1	中国	114,255 人 (43.7%)	ベトナム	829 人 (23.7%)
2	ベトナム	49,469 人 (20.4%)	ネパール	769 人 (22.0%)
3	ネパール	18,825 人 (7.8%)	中国	574 人 (16.4%)
4	韓国	14,247 人 (5.9%)	ミャンマー	413 人 (11.8%)
5	インドネシア	5,792 人 (2.4%)	スリランカ	324 人 (9.3%)
6	台湾	4,887 人 (2.0%)	インドネシア	218 人 (6.2%)

※下線は、本県における留学生獲得強化国

<ふじのくに地域・大学コンソーシアムにおける留学生支援事業への参加学生数>

	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
受入促進事業協力	－	－	－	－	10 人
生活基盤づくり講座	－	－	－	50 人	17 人
国際交流イベント	62 人	29 人	48 人	77 人	50 人
就職支援講座	69 人	121 人	223 人	134 人	159 人
企業見学会	8 人	59 人	55 人	－	20 人
企業交流会	128 人	165 人	165 人	108 人	82 人
インターンシップ・マッチング	54 人	44 人	10 人	5 人	7 人
広報アンバサダー	－	－	－	－	6 人
その他事業	53 人	－	－	4 人	4 人
計	374 人	418 人	501 人	378 人	355 人

<高等教育を軸としたグローバル政策の方向性>

(令和4年7月26日 文部科学省)

文部科学省は、コロナ禍で大きく停滞した国際的な学生交流を立て直すため、「高等教育を軸としたグローバル政策の方向性～コロナ禍で激減した学生交流の回復に向けて～」を取りまとめ、**外国人留学生の受入れ人数と日本人学生の留学人数について、2027（令和9）年を目途に、少なくともコロナ禍前の水準となる30万人超と10万人超に回復させる**目標を公表した。

